

集落外在住者が民俗芸能を継続して「演じられる」活動モデル 「通い神楽」の構築と活動継続要因の検証

2020.7.9
地域おこし研究員説明会

政策・メディア研究科 修士2年（花巻市地域おこし研究所）吉田 真彦 / Mail: masa0130@sfc.keio.ac.jp

キーワード：民俗芸能、通い神楽、集落外在住者、継続性

目的- 集落外在住者の手を借り、民俗芸能の廃絶を防ぐ活動モデルを構築

研究の意義 - 民俗芸能における集落住民の「少数関与※」の活動から、外部資源を活用する「交流・連携※」の活動への移行手段の創出

※2006, 澁谷

背景 - 集落の民俗芸能の演者は減少続きだが、集落外在住者の関与が一部で発生

民俗芸能の集落維持・再生機能

- ・人々が集い、戻る潜在的機能とコミュニティ維持機能(2014,阿部)
- ・地域社会の成立に不可欠な精神的支柱(2016,橋本)
- ・地域再建のためにに欠かせないアイテム(2015,橋本)

集落の人口減少と将来

- ・地方の15-29歳人口は2000年-2015年の15年間で532万人、出生数は17万人減少(2017,内閣官房まち・ひと・しごと創生本部)
- ・集落在住児童や生徒の演者活動は進学・就職が左右(2013,川野)

集落外在住者の関与

- ・分担：Iターン者・市外在住者が神楽、集落住民が祭礼執行(2006,澁谷)
- ・集落での講習からの集落外在住者による自主活動と公演、集落の民俗芸能団体との共演(2014,阿部)

問題 - 集落外在住者の参加継続には、複数の課題がある

問題①

活動参加が不定期・不安定

- ・参加機会が現住地での仕事やライフステージに左右
- ・移動時間や移動コストによる制約
- ・移住者「永住するか分からない」

問題②

集落外在住者の遠慮

- ・自分たちの舞を本家と同じものと思って鑑賞されると申し訳ない(2014,阿部)
- ・自分たちは地元の後継者が育つまでのつなぎ(2006,澁谷)

問題③

集落住民の意識と負担

- ・遠隔地住民への「演者」としての期待は低い(2006,澁谷)
- ・集落住民の意向を無視した介入は長期的には住民の負担増や伝承活動の衰退を招く(2006,澁谷)

回答案 - 集落在住者・集落外在住者の両方が継続可能な活動モデルの構築・定着

方法①

「不規則の通い」が前提

- ・集落の日常を踏まえ、通う日程の長期的調整
- ・花巻までの交通費支援
- ・現住地から「通い」で参加

方法②

活動への「お墨付き」

- ・オンライン活用等による本家の技術面の継続的なフォローアップ
- ・芸の水準到達認定制度等、活動の意義やモチベーション維持の仕組み

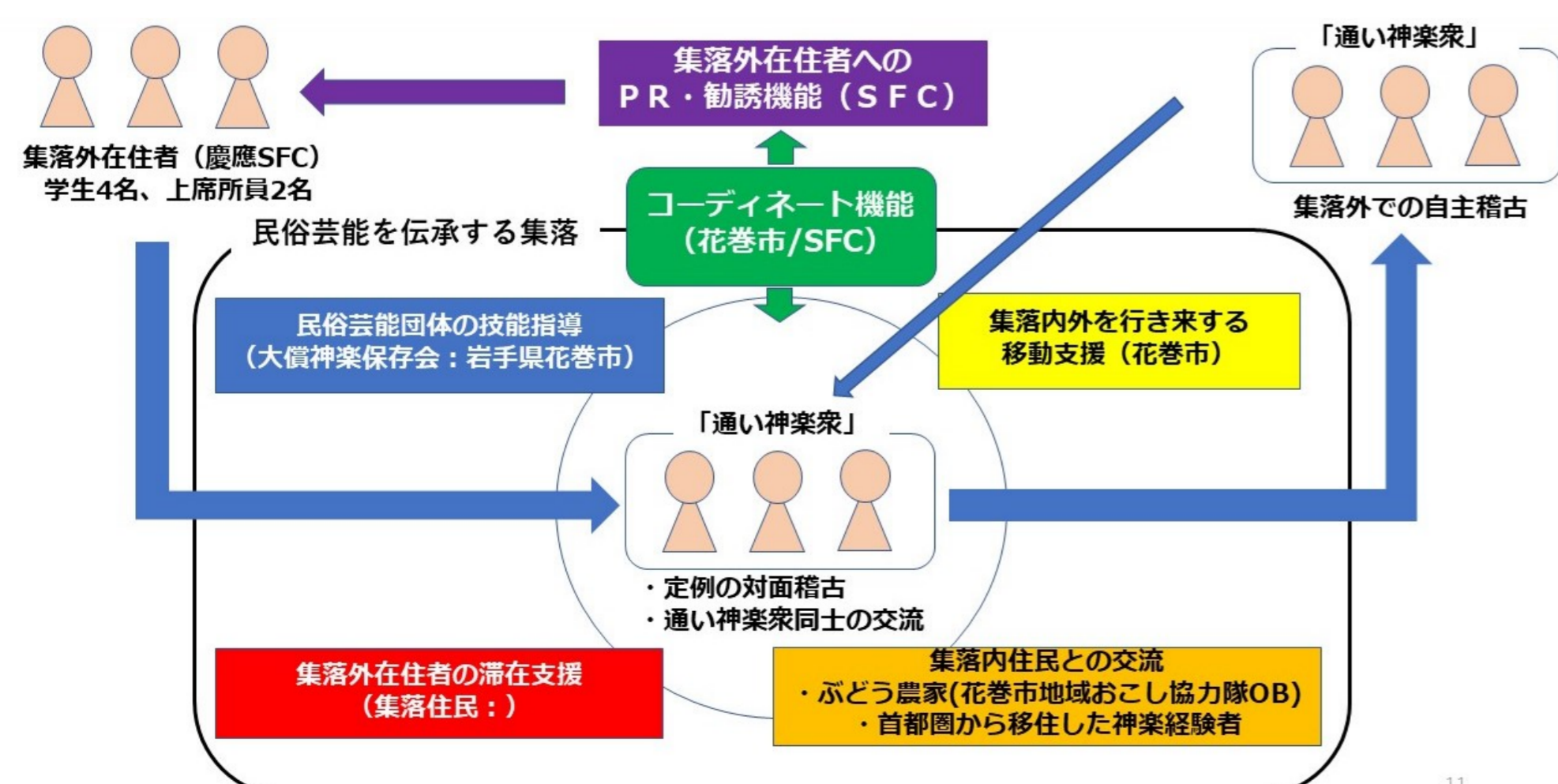
方法③

集落住民へのメリット創出

- ・集落外在住者との対話や指導を通じた価値の再整理機会の提供
- ・集落の地域活動に貢献するサポーターの獲得

通い神楽モデル - 2019.7-2020.2実践

民俗芸能団体：大償神楽（岩手県花巻市）の協力を得て、慶應義塾大学SFCの学生4名、研究所員2名が参加・実践



実践結果（分析中） -

- ・集落外在住者の参加継続要因（分析中）
「スケジュール調整」「移動・滞在支援」「モチベーション維持」「技術的フォロー」
- ・民俗芸能団体の受入継続要因（分析中）
「来られる人が指導」「自らの芸の見直し」「公演日程への配慮」「集落での稽古が大事」

今後の展開 -

- ・集落維持・再生に関する文献・事例調査
- ・活動継続要因の抽出と重要性の分析
- ・本モデルの一般化可能性の検証